

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

On your mark ～next100～

多様化する社会の諸問題と主体的に向かい合い、さまざまな課題を解決できる人材を育てます。

1. 体育・スポーツ分野のさらなる特化（学内連携のもと体育・スポーツを通じて社会に貢献できる人材を育成します。）
2. 多様な進学実績（グローバルな社会で活躍する人材の育成と学力養成の環境を整え、有名私大をはじめとした多様な進学先をめざします。）
3. ICT化の推進（次世代教育に対応するために学内のICT化環境及び教育を強化します。）

2 中期的目標

1 生徒個々に応じた学力の向上

(1) 授業力の向上：コースの特色に応じた授業が展開できるよう工夫していく。

- ア 「少人数授業」を活かし、「わかる授業」を推進していく。また、授業アンケート等を活用し、「授業力の向上」を図る。
- イ ICTを活用した授業を積極的に進めていく。令和4年度より授業支援アプリを導入。研究・研修を行い、ICT化を進めていく。
- ウ 成績不振者に対する指導を充実させ、基礎学力の定着を図り、家庭学習の習慣を確立させる。

*** 生徒向け学校教育自己診断における「授業はわかりやすいですか。」(令和3年：80%)を令和6年には85%以上にする。

(2) 授業にとどまらず様々な場面での学習環境を整備する。

- ア 漢字検定・英語検定・数学検定の受検対策を行い、目標達成に向けて意欲的に取り組ませる。
- イ 図書室や学級文庫の利用率を上げ、幅広い知識の習得をめざす。

*** 検定の合格率を向上させ、漢字検定・英語検定については卒業までに全員が3級以上取得をめざす。

(3) 生徒の自主的な学習態度を養う。

- ア 「浪商塾（放課後学習サポート）」をより充実したものにし、自主的な学習につなげていく。
- イ 主体的・協働的な学びを通して発表の機会を増やすことで、「自ら考え、自ら行動する」ことができる生徒を育てる。

*** 生徒向け学校教育自己診断における「毎日、家庭学習をしていますか。」(令和3年：58%)を令和6年には70%以上にする。

2 生きる力の育成

(1) 規律ある学校生活を送り、生徒会活動などを通じて自主自立の精神を育てる。

- ア 「浪中ルール」を徹底し、生徒の規範意識を高めていくとともに、教員の組織的・統一的な指導を行う。
- イ 挨拶・服装等の指導強化に取り組む。

*** 生徒向け学校教育自己診断における「本校では、社会のルールや命の大切さを学ぶ機会がありますか。」(令和3年88%)を令和6年には90%以上にする。

(2) 様々な体験活動やボランティア活動を通じて豊かな感性を養う。

- ア 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、浪商高校でリーダーとなる生徒を育てていく。
- イ 生徒が自ら企画・運営できる学校行事を設定し、学校が楽しいと実感できるものにする。

*** 生徒向け学校教育自己診断における「学校行事（文化祭・体育祭など）に楽しく、積極的に参加していますか。」(令和3年95%)を令和6年には100%にする。

(3) 新学習指導要領への対応（令和3年度全面実施）

- ア 各教科においては、指導内容や指導方法、評価の見直しを図りPDCAサイクルによる授業改善に取り組む。
- イ 未来を生きていく力を育むため、カリキュラムマネジメントを確立し、効果的な教育活動を行う。

*** 生徒向け学校教育自己診断における「先生は教え方に様々な工夫をしていますか。」(令和3年92%)を令和6年には95%以上にする。

3 中高一貫教育の推進と魅力ある学校づくり

(1) 6年後の進路を見すえ、計画的継続的教育活動を進め、学習面は言うまでもなく部活動でも生徒の個性を伸長しすぐれた才能の発見に努め、文武両道教育の一層の充実をめざす。

- ア 生徒・保護者向けの説明会をタイミングよく行い、納得のいくコース決定を行っていく。
- イ スクラップアンドビルドの実践。魅力ある浪商中学校実現ために体制を再構築していく。

*** 生徒向け学校教育自己診断における「学校に来るのが楽しいですか。」(令和3年89%)を令和6年には95%以上にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和4年11月実施分〕	学校評価委員会からの意見																					
回収率（在籍数 1年34名 2年35名 3年36名 全学年105名） <table><tr><td></td><td>1年生</td><td>2年生</td><td>3年生</td><td>全学年</td><td>R4</td><td>R3</td></tr><tr><td>生徒</td><td>34名</td><td>31名</td><td>33名</td><td>98名</td><td>93%</td><td>80%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>30名</td><td>31名</td><td>34名</td><td>95名</td><td>90%</td><td>75%</td></tr></table> ・生徒はGoogle フォーム、保護者はさくら連絡網で実施。 ・今年度は生徒・保護者とも回収率が90%を超えた。 【生徒アンケート】 アンケート19項目のうち13項目が80%を超える肯定率であった（昨年は12項目）。ただし、毎年同じ項目が低い肯定率なので、教育活動の振り返りと見直しを図りたい。 ＊肯定率が高い項目（R4・R3・R2） 3. 先生は教え方に様々な工夫をしていますか。（94・92・86%） 8. 本校では、社会のルールや命の大切さを学ぶ機会がありますか。（96・88・92%） 9. 清掃活動をきちんと行っていますか。（99・96・98%） 10. 学校行事（文化祭・体育祭など）に楽しく、積極的に参加していますか。（99・95・84%） 13. 自分が困ったり悩んだりしているとき、相談できる友達がありますか。（91・91・88%） 15. 先生は、生徒の頑張りをよく評価してくれていますか。（95・88・92%） 16. 学校で思いやりの心や人権の大切さを考える機会がありますか。（96・93・91%） ＊肯定率が低い項目（R4・R3・R2） 5. 毎日、家庭学習をしていますか。（塾以外）（36・58・59%） 17. 図書室を利用していますか。（27・39・33%） 【保護者アンケート】 ＊肯定率が高い項目（R4・R3・R2） 4. お子さんは文化祭や体育祭などの学校行事に積極的に参加している。（93・79・90%） 9. 学校は保護者の授業参観や懇談会の機会を適切に設けている。（94・96・87%） 10. 先生は保護者からの相談に適切に対応している。（93・92・94%） 12. 学校では、社会のルールや命の大切さを学ぶ機会がある。（91・87・87%） 13. 先生はいじめや暴力行為が起こらないよう取り組んでいる。（91・83・86%） 16. 学校や先生は事故防止や危機管理に取り組んでいる。（95・91・90%） ＊肯定率が低い項目（R4・R3・R2） 7. お子さんは入学して、また進級して学習活動に取り組む時間が増えた。（45・54・39%）		1年生	2年生	3年生	全学年	R4	R3	生徒	34名	31名	33名	98名	93%	80%	保護者	30名	31名	34名	95名	90%	75%	【学校関係者評価及び学校診断アンケートの結果報告】 「令和4年度 of 取組内容及び自己評価」、生徒、保護者、教職員の「学校診断アンケート」の資料やグラフに基づき詳細な説明を行った。 1) 学校関係者からの意見 ・生徒・保護者とも肯定率が高いのはすばらしい。 ・年々厳しくなっていると思うが、生徒募集について状況はどうか。特に中学校は厳しいのでは。 ・ICT機器の利用について、伸びてきているようだが、具体的にはどのように利用しているのか。→授業支援アプリ（Metamoji Classroom）を導入した。 ・今後のICT機器の整備についてどのように考えているのか。可能な範囲で、保護者会や同窓会にサポートしてもらってはどうか。→サポートしていただけるとありがたい。 ・たくさんの卒業生がいて、幅広い職種に就いていると思うが、職業観の育成もかねて、交流する機会を設けてみてはどうか。ホームカミングデイのようなもの。 ・教育内容の質をあげ、地域に発信することで、生徒確保が難しくなってきた状況を変えるチャンスになるのではないかと。→地元の中学校になじめないかもしれないという理由で浪商中学校を受験する児童もいる。いろいろな層の児童を受け入れることで自慢できる学校にしていきたい。 ・「中学」はとても大切。テコ入れはできているのか。中高の教員の交流はあるのか。→6年前から中高の職員室を同じにし、担任や授業も相互入れ替えを行っている。 ・中高大で連携しているレスリング、ハンドをアピールするべき。 ・見直すべきところは見直して、再評価し、変革している実態をもっととりあげるべき。 ・「毎日、家庭学習をしていますか。（塾以外）」の数値は気になるところであるが、全体的に改善点が見られる。 ・ICTの活用で、まずiPadを「見る」のはいい流れだと思うが、質の向上につながっているのか検証が必要である。→iPadは今の生徒の現状に合っているとは思いますが、それが質の向上につながっているのかは確かに検証が必要。 ・「私は友達に困っているとき、相談に乗ったり、助けたりする」と「私には、悩みなど相談できる友達がいる」の肯定率が高いのが最高にいいこと。いい雰囲気を作っている証拠。 開催日： 令和5年6月25日（日） 学校関係者評価 令和5年9月19日（火） 学校関係者評価 出席者： 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 校長 工藤哲士 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 教頭 北川浩司 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 教頭 濱田倫史 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 事務長 岸本雅彦 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 入試対策室長 植村大樹 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 主幹教諭 福光聖美 大阪体育大学浪商中学校・高等学校 主幹教諭 松田博志 大阪体育大学 体育学部 スポーツ教育学科長 曾根純也 元保護者会会長 小林弘輝 堀博充税理士事務所 堀博充
	1年生	2年生	3年生	全学年	R4	R3																
生徒	34名	31名	33名	98名	93%	80%																
保護者	30名	31名	34名	95名	90%	75%																

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価																
1 生徒個々に 応じた学力の 向上	(1) 授業力の向上	(1)	(1)	(1)																
	ア 「少人数授業」を 活かした、「わかる 授業」の推進	ア・習熟度別授業の充実を図る。 ・「授業アンケート」をもとに教員面談 を実施する。	ア・生徒向け学校教育自己診断に おける「授業はわかりやすいです か。」 (令和3年度 80%) ⇒90%に	ア・85%/+5% (○) 少しずつだが上昇している。継続 して丁寧な指導を行っていく。																
	イ ICT の活用	イ・今年度から「Metamoji Classroom」 「Classi」「Teams」を学内共通のツール として設定した。 ・iPad を積極的に活用する。また、定 期的な研修を行う。	イ・生徒向け学校教育自己診断に おける「先生は教え方に様々な 工夫をしていますか。」 (令和3年度 92%) ⇒95%に	イ・94%/+2% (○) 「Metamoji Classroom」を導入し たことで、活用の幅が広がった。 研修ができなかったので、前向き に取り入れていきたい。																
	ウ 家庭学習習慣の 確立	ウ・定期考査後の学習管理の徹底を図り、 成績不振者にはきめ細かいサポート を行っていく。 ・iPad や学習コンテンツを家庭学習に活 かしていく。	ウ・生徒向け学校教育自己診断に おける「毎日、家庭学習をして いますか。(塾以外)」 (令和3年度 58%) ⇒65%に	ウ・36%/-22% (×) 少しずつ上昇していたが、今年度 は特に3年生が落ち込んだ。学習 コンテンツをうまく活用してい きたい。																
	(2) 様々な場面での 学習環境の整備	(2)	(2)	(2)																
	ア 各種検定試験に 向けて積極的な 取組み	ア・検定試験合格率アップのため、授業や ステップアップ講座(放課後)で対策 を行う。	ア・中学卒業までに全員英語検定3級 以上合格させる。 ・グローバル進学コースでは卒業ま でに英語検定準2級合格をめざ す。 ・日々の学習が検定試験の結果に つながるように、授業内容や課題 を工夫する。	ア・全員必須受検ではなくなったの で、受検者数・合格者数が減って きた。前向きに取り組んでいる生 徒のためにサポート体制を強化 していく。(×)																
				<table><tr><td>漢検</td><td>準2級</td><td>3級</td><td>4級</td></tr><tr><td>1年生</td><td>0</td><td>0</td><td>4</td></tr><tr><td>2年生</td><td>0</td><td>1</td><td>7</td></tr><tr><td>3年生</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr></table>	漢検	準2級	3級	4級	1年生	0	0	4	2年生	0	1	7	3年生	2	2	2
	漢検	準2級	3級	4級																
	1年生	0	0	4																
	2年生	0	1	7																
3年生	2	2	2																	
			<table><tr><td>英検</td><td>準2級</td><td>3級</td><td>4級</td></tr><tr><td>1年生</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>2年生</td><td>0</td><td>4</td><td>0</td></tr><tr><td>3年生</td><td>3</td><td>4</td><td>0</td></tr></table>	英検	準2級	3級	4級	1年生	0	0	0	2年生	0	4	0	3年生	3	4	0	
英検	準2級	3級	4級																	
1年生	0	0	0																	
2年生	0	4	0																	
3年生	3	4	0																	
イ 読書活動の推進	イ・図書室の貸出冊数と授業利用時間を アップさせる。 <table><tr><td></td><td>令和 2年度</td><td>令和 3年度</td></tr><tr><td>貸出冊数</td><td>464 冊</td><td>621 冊</td></tr><tr><td>授業利用</td><td>34 時間</td><td>55 時間</td></tr></table>		令和 2年度	令和 3年度	貸出冊数	464 冊	621 冊	授業利用	34 時間	55 時間	イ・図書室の貸出冊数と授業利用時間 令和4年度の目標数値 貸出冊数 ⇒650 冊に 授業利用時間 ⇒60 時間に	イ・令和4年度の数値 貸出冊数 652 冊/+31 冊 (○) 授業利用時間 49 時間/-6 時間 (×) 図書室と連携し、利用を促してい きたい。								
	令和 2年度	令和 3年度																		
貸出冊数	464 冊	621 冊																		
授業利用	34 時間	55 時間																		
(3) 生徒の自主的な 学習態度を養う	(3)	(3)	(3)																	
ア 「浪商塾(放課後学 習サポート)」の 充実	ア・呼び出し基準・実施方法・保護者への 連絡などを見直し、個々に応じた対応 をしていく。	ア・主に各教科30点以下の生徒を指 名しているが、普段の授業での理 解度を上げ、指名される人数を減 らしていく。	ア・学力差が大きいので、実情に応じ てクラス分け等の工夫をする。 (△)																	
イ 「アクティブラーニ ング」や「協働学習」 の推進	イ・「アクティブラーニング」や「協働学 習」を効果的に行い、「自ら考え、自ら 行動する」生徒を育てていく。	イ・「総合的な学習の時間」だけでは なく各教科でもみんなで「考え る」時間を増やしていく。	イ・各行事の振り返り等においてプレ ゼン資料を作成し発表する機会 を増やしている。同時に「聴く」 姿勢も身につけさせたい。(△)																	

2 生きる力の育成	(1) 自主自立の精神の育成	(1)	(1)	(1)
	ア 生徒の規範意識の向上と、教員の組織的・統一的な指導	ア・「浪中ルール」を徹底し、生徒・保護者・教員が共有することで安心安全な学校を作っていく。 ・情報交換を密に行い、問題事象を早期発見・対応していく。	ア・生徒向け学校教育自己診断における「本校では、社会のルールや命の大切さを学ぶ機会がありますか。」 (令和3年度 88%) ⇒95%に	ア・96%/+8% (○) 少しずつ全体で話をする機会が増え、統一した指導をすることができた。
	イ 挨拶・服装などの指導強化	イ・服装の乱れやその他の違反は特にないが、挨拶に関してはまだ積極的にできていない生徒がいるので、習慣化できるようにする。	イ・教室や集会などでの声かけや、挨拶運動などを行う。	イ・集会は実施できたが、挨拶運動が実施できなかった。自ら挨拶ができる、気持ちのいい学校にしていきたい。(△)
	(2) 豊かな感性の育成	(2)	(2)	(2)
	ア 生徒の自己有用感を醸成し、浪商高校でリーダーとなる生徒を育成	ア・生徒会活動を充実させる。委員会活動を計画的に行い、生徒の主体性を養う。	ア・月に1回、生徒会委員会を開く。	ア・定期的に開くことができた。少しずつ自主的な活動も増えてきている。(○)
	イ 体験型学習の充実	イ・コロナ禍の中、実施できなかった体験型学習を可能な範囲で実施していく。	イ・「保育体験」「民泊体験」「職業体験」「福祉体験」を実施する。	イ・「福祉体験」以外は実施することができ、生徒の活き活きとした姿を見ることができた。(○)
3 中高一貫教育の推進と魅力ある学校づくり	(3) 新学習指導要領への対応	(3)	(3)	(3)
	ア 智・徳・体のバランスがとれた未来を生き抜く力の育成	ア・主体的・対話的で深い学びの視点からシラバスを見直し、授業改善を行う。	ア・すべての授業でアクティブラーニングやICTを活用した授業を行い、生徒が能動的な学びができるようにする。	ア・すべての授業とまではいかないが、ICT機器の活用は増えている。より深いものにしていきたい。(△)
	イ カリキュラムマネジメントの確立	イ・教科横断型授業の実践とPDCAサイクルの確立のため教育課程の編成を行う。	イ・教員が理解を深めるため、研修等を行う。	イ・学校内での実施ができなかった。(×)
	(1) 中高一貫教育の充実と発展	(1)	(1)	(1)
	ア 生徒・保護者向け内部進学説明会の充実	ア・懇談会や内部進学説明会の実施のタイミングを見直す。 ・浪商高等学校5つのコースの特長を理解してもらい、生徒に合ったコース選択をしていく。	ア・内部進学者 100%をめざす。 (令和3年度 95%)	ア・内部進学者 86%/-9% (△) 引き続き、生徒・保護者へタイミングよく丁寧な説明を行っている。
	イ 魅力ある浪商中学校の実現するために体制を再構築	イ・教科指導・生活指導・部活動指導など、現状に合った指導を行うため、スクラップアンドビルドを実践していく。 ・中高大の連携をより強いものにし、また教育資源を活用し、中学校の特色をしっかりと出していく。 ・令和4年度募集からコース制を廃止し、1クラスで募集することになった。これまでの取り組みを整理し、より魅力的な教育内容を作る。 ・入試方式・日程の検証を行い、現状に合ったものにしていく。	イ・学校・学年の特色をはっきりさせるために、行事を見直す。 ・入試業務をスリム化し、かつ受験生を増加させる。	イ・一部行事を見直し、現状に合った行事を入れることができた (○) ・令和5年度募集からN方式の選択科目を見直したことで、入試業務が少しではあるがスリム化した。 ・受験生は少し増加し、1クラス募集の予定が2クラス展開することになった。(○)